

引き続き、 詳細な説明を国に要望

日米両政府は、5月1日に訓練・運用のため、空中給油機部隊が鹿屋基地にローテーションで展開するという内容を盛り込んだ最終報告を発表しました。また、5月30日には、今回の米軍再編の実施に関する閣議決定が行われました。

これら一連の動きを踏まえ、鹿屋市が新たに提出した質問や、これまでに提出していた質問について、国から回答が示されました。



鹿屋市は、昨年10月に中間報告が発表されて以降、132項目の質問書を国に提出し、移駐案の詳細について説明を求めてきました。

この質問に対する回答については、米国側と協議中だったことから、空中給油機の騒音や訓練形態、新たに整備される施設など、市民生活や地域経済に大きな影響を及ぼす事項については、実質的に未回答となった項目が多数ありました。

また、最終報告に盛り込まれた空中給油機のローテーション展開についても、具体的な内容や実施時期が不明だったことから、市では、新たに質問書を提出してまいりました。

このような鹿屋市からの質問に対する未回答の部分や新たな質問に対し、国は、まず、6月8日に、最終報告に関する質問について回答。その内容は、

ローテーション展開の実施時期については、空中給油機部隊が岩国基地に移駐した後、移駐すること、ローテーション及び運用の具体的な計画については、今後、米側部内において検討すること

7月12日には、先の132項目の質問事項のうち、実質的に未回答となっていた項目について回答。中間報告の空中給油機部隊の鹿屋基地への移駐から、最終報告でのローテーション展開への変更を踏まえての回答でしたが、空中給油機のローテーション展開及び訓練の詳細など、市民生活に影響を与える事項については、引き続き、日米間で調整・検討するとの回答が示されました。

また、補給施設や家族住宅、商業・娯楽施設(「コミュニティ・サポート関連施設」)

などの基地施設については「大規模な整備は、現時点で想定していない」としつつ、個別の施設については、「今後、具体的に検討する」としています。

これらの回答を受け、市は国に対し、市民・地域に及ぼす影響等について検証できるように、引き続き詳細な説明を要望しました。

市では、今後とも、説明があつた段階で、市民の皆様にお知らせしていく予定です。

【問い合わせ先】
市地域政策課
0994-31-1154

質問書に対する国からの主な回答の概要

質問事項の概要	回答内容の概要	備考
1 普天間代替施設完成以前にローテーション展開が先行実施される可能性について	普天間代替施設が完成し、岩国基地へ空中給油機が移駐した後に、鹿屋基地等へのローテーション展開が実施されると考えている。	前回回答とほぼ同じ
2 「他の自衛隊又は米軍の輸送機・哨戒機の一時的展開」の内容(期間、頻度、形態)について これ以外の他の付随的な計画の有無について	他の輸送機、哨戒機の一時的展開については、あくまで一時的なものであり、自ずと限定的なものになる。 中間報告に記載された輸送機又は哨戒機の一時的な展開以外に日米間で協議された事項はない。	は前回回答とほぼ同じ
3 最終報告に記載された「ローテーション」及び「運用」の具体的な内容について	ローテーションとは、空中給油機2~3機が交代で、鹿屋基地やグアムに展開することを指すが、具体的な計画について、今後、米側内部において検討される。 運用とは、通常任務として行われる空中給油等を示すと理解している。	前回回答とほぼ同じ
4 空中給油機の飛行コース、訓練時間、飛行時間帯、離着陸回数、行動範囲について	飛行コースが自衛隊と異なる場合は、説明できるよう米側と調整していく。 訓練時間や時間帯等は、移駐する訳ではないため、限定的なものになる。 離着陸回数について説明できるよう、米側と調整していく。 運用及び訓練などに係る行動範囲については、米軍の運用に関わるので、確定的に言えない。	前回回答とほぼ同じ
5 騒音苦情に対する窓口の設置について	米軍側の窓口は設置されないと考えられるので、福岡防衛施設局及び宮崎防衛施設事務所に対応する。	
6 鹿屋基地までの燃料の輸送方法について	基本的に、タンクローリーにより燃料を輸送するものと考えているが、今後、米側との調整により、異なる輸送手段を採る場合には、適宜説明する。	前回回答とほぼ同様
7 空中給油機の展開を受け入れるために必要な施設及び米軍と自衛隊が共同使用する施設の詳細、並びに建設スケジュールについて	既存の海上自衛隊の施設を活用し、駐機場や宿泊施設などの必要性について、今後、具体的に検討していく。 滑走路や誘導路、訓練のための支援施設の一部は共同使用することが考えられるが、今後、具体的に検討する。 部隊は常駐しないので、大規模な整備・補給施設や家族住宅、商業・娯楽施設(「コミュニティ・サポート関連施設」)などを建設することは現時点で想定していない。	は前回回答とほぼ同じ
8 隊員とその家族の人数及び居住形態について	司令部や家族住宅は岩国に置かれることになったことから、鹿屋基地に大規模な人員が常駐することは想定していない。 管理要員としての米軍人等の常駐については、引き続き検討するが、大規模な常駐人員は想定していないことから、基本的に基地内に居住すると考えられる。	